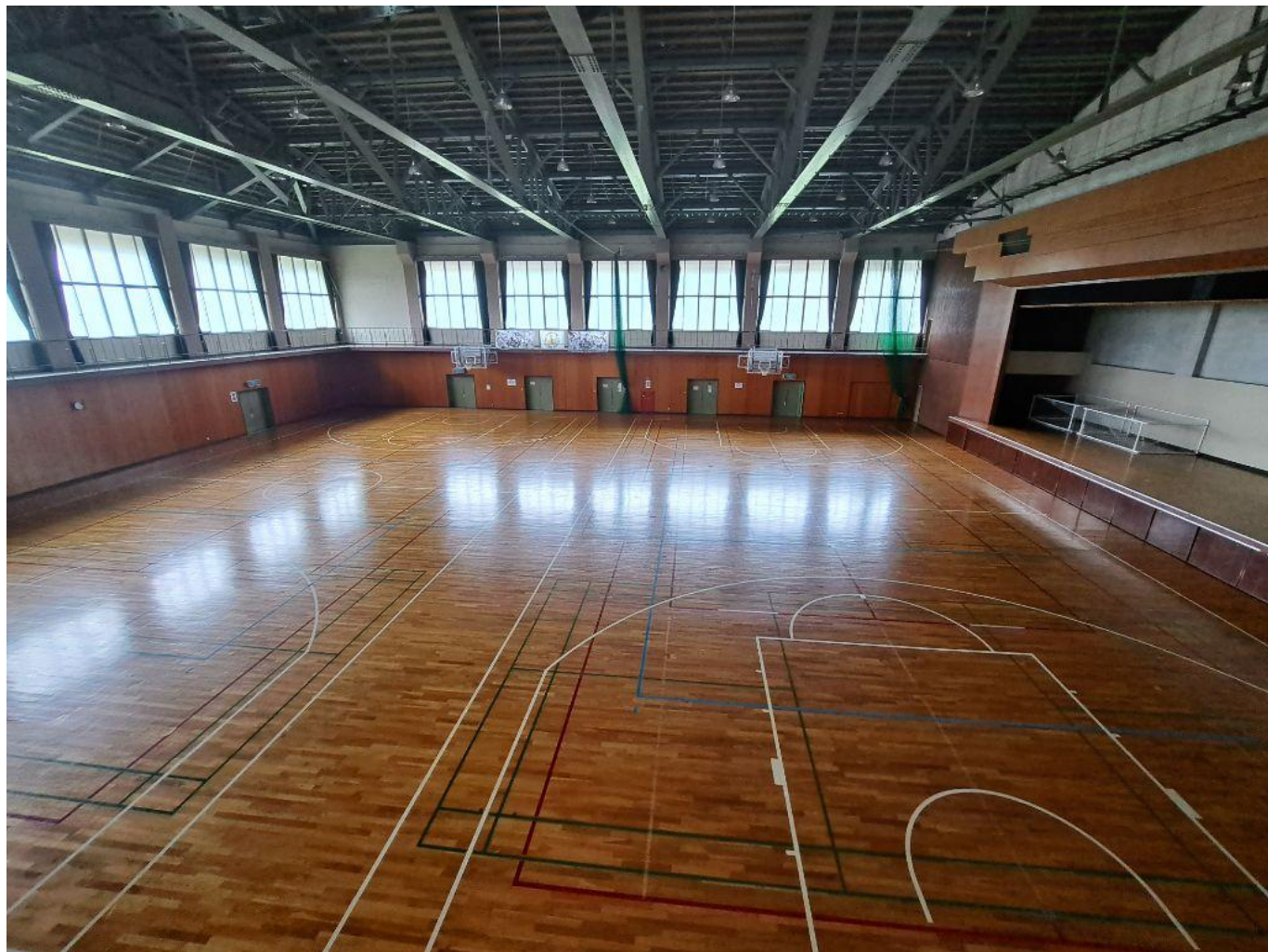


飛騨市スポーツ施設整備計画



平成31年2月
令和8年3月改定(案)
飛 騨 市

目 次

第1章 計画の概要

1. 計画の目的 2頁
2. 計画の位置づけ 2頁
3. 計画の期間 2頁

第2章 現状と課題

1. スポーツを取り巻く環境 3頁
2. スポーツ施設の現状 3頁
3. スポーツ施設に求められるニーズ 3頁
4. スポーツ施設整備にあたっての課題と計画の見直し 4頁
 - (1)課題 4頁
 - (2)計画の策定と見直し 5頁

第3章 整備計画 6頁

1. 改修整備に関する計画 7頁
 - (1)施設の評価基準 9頁
 - (2)優先度の評価 10頁
 - (3)計画からの除外 11頁
 - (4)計画改定委員会としての総合的評価 12頁
 - (5)各施設の評価内容 13頁
2. 既存施設のLED化整備計画 22頁
3. 既存施設の維持整備計画 26頁
4. 財源の見通しについて 31頁

資料編

1. 計画の策定経緯 32頁
2. 計画の策定体制 33頁
3. 改修整備を行う施設の所在地 34頁
4. スポーツ施設の延べ利用者推移 35頁

第1章 計画の概要

1. 計画の目的

飛騨市スポーツ施設整備計画は、第2次教育振興計画（飛騨市スポーツ推進計画）に基づき、限られた財源と投資的経費の中、既存施設の大規模維持修繕や市民等から要望のある施設整備について、計画的に整備を推進していくための計画です。

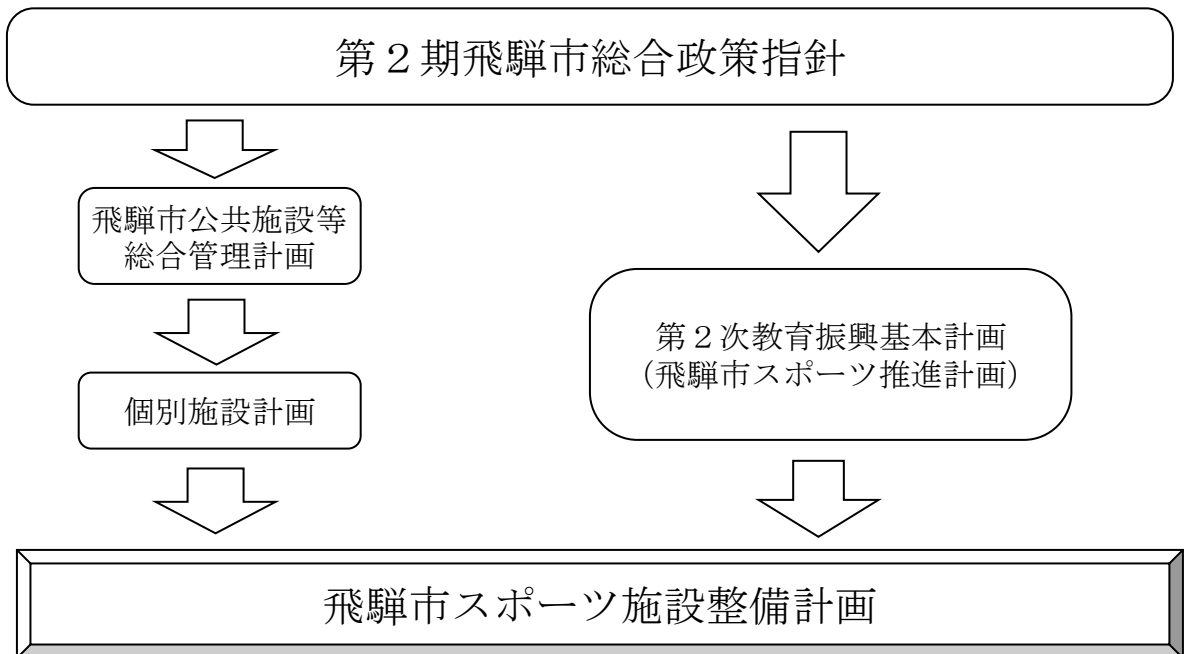
しかし、令和2年には世界的な規模で新型コロナウイルス感染症が拡大、令和4年2月にはロシアのウクライナ侵攻が始まり、これらを起因とした急激な物価高騰は、市民生活のみならず飛騨市のスポーツを取り巻く環境にも大きく影響を与えることとなりました。また、「水銀に関する水俣条約」に基づく蛍光灯の2027年問題による施設照明のLED化など、喫緊の施設整備が急務となっています。

こうした社会情勢の急激な変化、計画策定後の新たな利用者ニーズ等をうけ、本整備計画についても大幅な見直しが不可欠となったことから、計画の見直し、改定を行うものです。

なお、この計画では、市民に利用していただく施設の整備だけでなく、交流人口拡大に向けたスポーツ大会・宿泊誘致施設の整備についても併せて検討しています。

2. 計画の位置づけ

飛騨市スポーツ施設整備計画は、第2期飛騨市総合政策指針および第2次飛騨市教育振興計画（飛騨市スポーツ推進計画）における環境づくりの指針に沿って策定するとともに、併せて飛騨市公共施設等総合管理計画とも整合性を図りながら、策定しています。



3. 計画の期間

飛騨市スポーツ施設整備計画の見直し後の期間は10年間、令和17年度(2035年度)までとします。ただし、逐次変動する財政状況のほか、計画を取り巻く様々な状況変化を踏まえ、必要に応じて、評価・点検を行い、適正な計画であるよう整備計画の見直しを加えるものとします。

第2章 現状と課題

1. スポーツを取り巻く環境

飛騨市では、町村合併以前から各地域において盛んに各種スポーツが行われており、特に、スキー、野球、サッカー、剣道などについては、地域の実情に合わせ伝統と実績を積み重ねてきています。また近年、高齢者を中心にゲートボールやグラウンドゴルフといった軽スポーツも各地で盛んに行われています。

しかしながら、人口減少と少子高齢化によりスポーツを行う人や支える人々も減りつつあり、今後の発展が心配されています。また、地域が広範囲で、地勢的に集落が点在しており、地域間のスポーツ交流が思うように進まないことや、冬季の積雪により、グラウンド等屋外施設が長期間使用できない等のマイナス要因もあります。

令和8年度には、中学部活動が地域クラブに移行されるなど、これまでとは異なる新しいスポーツ環境が構築されることになり、子どもたちにとっても大きな環境の変化を迎えることとなります。

2. スポーツ施設の現状

飛騨市には、現在、21の屋内スポーツ施設と32の屋外スポーツ施設が条例で定められています。このうち、屋内6施設と屋外4施設は指定管理施設であり、市のスポーツ施設の中でも多くの利用があります。

屋内スポーツ施設では学校体育施設の開放等も行っており、中学校部活動、スポーツ少年団やスポーツ協会等による市内スポーツ行事なども盛んに行われていますが、人気の高い施設においては、利用が集中する時期に公平性を期すため調整会議等を行い、お互いに譲り合って使用してきましたが、令和4年度より抽選機能を備えた公共施設予約管理システムを導入し、公平性と施設利用者の利便性を高めて運用しています。

また、屋外施設では、野球とサッカー、グラウンドゴルフの利用が多く、特にサッカー、野球場においては、市外からの利用もあるため、予約が取れない場合もあります。

高齢者を中心に全国で流行したゲートボールにおいては、旧各町村内に屋内、屋外のゲートボール場が整備されており、競技人口は減少傾向にありますが、今も高齢者の憩いの場として使用されています。

総じて市のスポーツ施設は老朽化が進んでおり、屋内建物系施設や人工芝グラウンドなどの改修を望む声も多くあるのが現状です。

3. スポーツ施設に求められるニーズ

近年のスポーツは、かなり多様化してきており、昔から伝統的に継承されている野球、サッカー、柔剣道等に加え、ボルダリングやスケートボード等、若者を中心に広がりつつある新しいスポーツへの対応も検討していく必要がでてきています。

一方で高齢者のスポーツとして親しまれてきたゲートボールに加え、よりルールの簡単なグラウンドゴルフのプレーヤーが年々増加してきた経緯もあり、グラウンドゴルフ用の屋内施設整備を望む声も上がっています。

なお、日常が忙しい現代人のニーズとして、個人で気軽に行うことのできる有酸素系トレーニングや、筋力強化器具の配備されたトレーニングジムやプール等の施設が求められており、市外にある施設を利用されている方も多くみえます。

また、スポーツ施設は、市民の健康づくりだけでなく、野球やサッカー、ラグビー、スキー等の施設は、昔から市外からのスポーツ合宿等に利用され、民宿等の収益に関わりの強い施設として維持整備がされてきており、今後も交流人口の維持増加のための施設としても、整備を進めていく必要があります。

4. スポーツ施設整備にあたっての課題と計画の見直し

(1) 課題

現状でも述べたように、飛騨市には53ものスポーツ施設がありますが、利用度の高い施設ばかりでなく、特定の地域のみで年に数回程度しか使用されていない施設や全く使用されていない施設もあり、スポーツ施設として一括管理していくには難しい現状があります。

飛騨市が広範囲な地域に広がる市であるために、単に利用度の低さのみで施設の改廃を決定することはできませんが、特に使用の少ない施設は、老朽化や荒廃が進みやすいため、整備費用が嵩み財政的な負担が年々増加する傾向にあるため、利用度の高い施設、低い施設のすみわけを行い、その施設の必要性や利用度に即した維持管理方法や、機能の集約化を検討していく必要があります。

スポーツ施設の利用は、屋外施設が冬季使用不能になり、季節や天候に左右されることが多く、また夏休み期間の利用が他の時期と比べて極端に増加するという社会的な影響を受けるなど、安定した通年利用が困難となっています。施設の必要性や管理方法の検討にあたっては、ピーク時以外の閑散期も視野に入れた検討を行い、バランスを考慮する必要があります。

他方で、スポーツ施設の多くは町村合併前に建設整備されたものが大半を占め、今後、施設を維持していくためには、順次老朽化対策としての整備を進めていく必要があります。

なお、スポーツ施設は大規模なものが殆んどで、その維持管理、整備にあたっては、高額な費用が必要となります。しかしながら、今年度の計画見直しの大きな要因となった急激な物価高騰は、こうした施設の維持管理費や整備事業費に多大な影響を与えており、市の財政計画における公債費の抑制や、他の優先的、喫緊的大型事業との財政的なバランスを考慮した場合、改めて各々の施設のあり方、必要性等について総合的に評価しながら、限られた財源の中で適正かつ効率的な整備が求められます。

また、令和7年度から5年間の計画で策定された飛騨市の最上位計画である「第2期飛騨市総合政策指針」においては、将来の飛騨市人口ビジョンとともに、公共施設の管理運営の基本方針として「選択と集中」を掲げており、人工芝グラウンドやスキー場などの維持管理費、整備費が高額なスポーツ施設は、今後の方向性について決定することとしています。

(2) 計画の策定と見直し

当初の計画策定では、施設の現況を踏まえ、各々の施設のあり方、必要性、整備の優先度、整備の実施について総合的に評価するために、スポーツを通じた交流に造詣の深い市民の方で構成する「飛騨市スポーツ施設整備計画策定委員会」を立ち上げ、計画策定について検討を行いました。

今回の計画見直し、改定にあたっては、第2期飛騨市総合政策指針における公共施設の管理運営の基本方針を背景として、新たな検討委員会を組織し、物価高騰の影響による事業費や評価の見直し、計画策定後に市民等から要望のあった整備事業の追加評価、市民ニーズの変化、事業の終了等に伴う整備計画事業の加除、財源計画の見直しなどを行い、直近の施設利用状況などを反映した施設の評価により計画の見直しを行います。特に、当初の本計画において総合評価Ⅰ・最優先として位置付け整備計画を進めてきた古川町屋内運動場新築事業が、物価高騰の影響により事業を一旦休止せざるを得ない状況となったことなども踏まえ、大幅な計画の見直し、改定を行っていきます。

会議開催概要、委員会委員と改修施設の所在地（計画予定地）については、33～35頁の通りです。

第3章 整備計画

今回の計画見直しにおいては、急激な物価高騰など、社会情勢の急激な変化の影響を鑑み、これまでの要望度合い評価点を見直し、計画期間内におけるスポーツ施設の整備事業評価は、

1. 改修整備に関する計画（大規模改修系施設） 7 P
2. 既存施設のLED化整備計画（LED化改修系施設） 23 P
3. 既存施設の維持整備計画（維持修繕系施設） 27 P

に振り分け、直近の利用者数や財源確保、経済・改修効果に関する事項に重点を置き、新たな要望案件も含め、再評価・優先順位付けをするものとします。

また、新たな施設新改築に係る整備は行わないものとし、評価基準を設定します。

1. 改修整備に関する計画

【古川トレーニングセンター】



【杉崎公園グラウンド】



【流葉交流広場】



【古川ラグビー場】



【サン・スポーツランドふるかわ】



【桜ヶ丘体育館】



1. 改修整備に関する計画

当初のスポーツ施設整備計画では、施設の新設及び既存施設の改修整備について、これまで市において検討がなされているが事業化に至っていない案件並びに市民等から要望がある案件について、整備事業の実施、優先度、必要度についての評価を行っています。今回の見直しでは、評価基準に新たに財源確保に関する評価を加えたほか、新改築に係る整備は計画に含めないものとしています。

また、行政目的の異なる「市民活動施設」と「スポーツ大会・宿泊誘致施設」があるため、それぞれ評価基準を設定し総合的評価、優先度を決定します。

(1)施設の評価基準(大規模改修系)

施設の評価基準について要望度合と事業効果、財源確保の観点から以下のとおり設定します。

【市民活動施設】

項 目	基準	考え方
要望度合	A	飛騨市全域を統括する団体の要望 若しくは、5団体以上の合同の要望
	B	上記以外の要望
事業効果	A	【改修】利用者が年間10,000人以上見込める施設整備 【改修】利用者増加が現在の2割以上見込める施設改修 【改修】改修後の維持管理費削減が3割以上見込める施設改修
	B	【改修】利用者が年間5,000人以上見込める施設整備 【改修】利用者の増加が1割以上見込める施設改修 【改修】改修後の維持管理費削減が2割以上見込める施設改修 【共通】Aの条件であっても、代替案がある等、検討課題が残っている施設整備もしくは施設改修
	C	【改修】利用者の増加がほぼ見込めない施設改修
財源確保	A	【改修】事業費の1/3以上の補助財源が見込め、かつ有利な起債が充当できる施設改修整備
	B	【改修】少額だが一定の補助財源が見込め、かつ有利な起債が充当できる施設改修整備
	C	【改修】補助財源、かつ有利な起債が見込めない施設改修整備

【スポーツ大会・宿泊誘致施設】

項 目	基準	考え方
要望度合	A	市全域に関わる事業。 観光面で重要な交流団体等からの要望
	B	上記以外の要望
事業効果	A	大幅な集客数の拡大(2割増以上)が見込まれるもの。 集客数の大幅な減少(2割以上)を防止するもの。
	B	集客数の増加(1割程度)が見込まれるもの。 集客数の減少(1割以上)を防止するもの。 Aの条件であっても解決すべき課題のあるもの。(市内宿泊施設、事業者の減少など)
	C	集客数の増加が見込まれないもの。 集客数の増加は見込めるが、運営コストが高い等、費用対効果が見込めない恐れが高いもの。
財源確保	A	【改修】事業費の1/3以上の補助財源が見込め、かつ有利な起債が充当できる施設改修整備
	B	【改修】少額だが一定の補助財源が見込め、かつ有利な起債が充当できる施設改修整備
	C	【改修】補助財源、かつ有利な起債が見込めない施設改修整備

(2)優先度の評価（市民活動・スポーツ大会宿泊誘致施設共通）

優先度の評価は要望度合の評価（A, B）と事業効果の評価（A, B, C）に財源確保評価の組み合わせにより、以下のとおり総合的に評価し、優先度を順位付け（Ⅰ～Ⅵ）します。また、優先度の評価に関しては、いずれの施設も事業効果＋財源確保を優先とします。

※同点の場合の評価の傾向 事業効果＋財源確保＞要望度合 （ ）内は点数

事業効果	財源確保	事業効果 ＋ 財源確保	要望度合	
			A(3)	B(2)
A(4)	A(4)	AA(8)	(11)	(10)
A(4)	B(3)	AB(7)	(10)	(9)
B(3)	A(4)	BA(7)	(10)	(9)
B(3)	B(3)	BB(6)	(9)	(8)
A(4)	C(1)	AC(5)	(8)	(7)
C(1)	A(4)	CA(5)	(8)	(7)
B(3)	C(1)	BC(4)	(7)	(6)
C(1)	B(3)	CB(4)	(7)	(6)
C(1)	C(1)	CC(2)	(5)	(4)

【総合的評価の考え方】

優先度 Ⅰ (10～11点)	計画に基づき、新規に進める事業
優先度 Ⅱ (9点)	内容の再検討により課題を解決し、その都度、優先度を検討する事業
優先度 Ⅲ (8点)	内容の再検討により課題を解決し、予算状況も考慮して優先度を検討する事業
優先度 Ⅳ (7点)	内容の大幅な見直しにより、その都度、必要性を検討する事業
優先度 Ⅴ (6点)	中期的(5年)な視点で、事業の必要性等について再度検討していく事業
優先度 Ⅵ (4～5点)	長期的(10年)な視点で、事業の必要性等について再度検討していく事業

(3)計画からの除外

今回の整備計画の見直しにおいては、整備費が高額となる新改設事業や、当初計画において最優先として進めた古川町屋内運動場の整備費上限であった4億5千万を超過する事業は除外するものとし、施設の集約化が決定したもの、整備が終了したもの、要望が取り下げられたものについても除外します。

計画から除外する事業

事業名	施設種別	当初概算 事業費	見直し概 算事業費	当初計 画評価	除外理由
古川町屋内運動場新築事業	市民活動施設	428,131,000	750,000,000	I	新設事業・事業費超過
数河緑地広場人工芝布設事業	スポーツ大会・宿泊誘致施設	307,500,000	461,250,000	I	新設事業・事業費超過・要望取り下げ
流葉人工芝グラウンド整備事業	スポーツ大会・宿泊誘致施設	619,810,000	929,715,000	Ⅲ	新設事業・事業費超過
ふれあい広場グラウンド増設事業	スポーツ大会・宿泊誘致施設	521,618,000	782,427,000	Ⅲ	新設事業・事業費超過
旭ヶ丘プール改修事業	市民活動施設	23,500,000	35,250,000	Ⅵ	神小プールへ統合
森林公園陸上競技場改修整備事業	市民活動施設	651,000,000	976,500,000	Ⅵ	事業費超過
サン・スポーツランドふるかわ野球場改修事業	市民活動施設	800,000,000	1,200,000,000	Ⅵ	事業費超過
森林公園宿泊棟整備事業	スポーツ大会・宿泊誘致施設	320,000,000	480,000,000	Ⅵ	新設事業・事業費超過
桜ヶ丘体育館トレーニング室整備事業	市民活動施設	18,000,000	—	I	整備の完了

※見直し概算事業費は、建設物価調査会物価、人件費推移より、当初計画時の概ね1.5倍を想定。

(4) 計画改定委員会としての総合的評価 ※()内は配点数

優先度Ⅰ
新規に進める事業

【市民活動施設】

事業名	要望度合	事業効果	財源確保	総合評価	費用(円)
古川トレーニングセンター大規模改修事業	A(3)	A(4)	A(4)	I(11)	184,242,000

優先度Ⅱ～Ⅳ
優先度を検討する事業

【市民活動施設】

事業名	要望度合	事業効果	財源確保	総合評価	費用(円)
杉崎公園グラウンド人工芝等再整備事業	A(3)	B(3)	B(3)	Ⅱ(9)	291,900,000
サン・スポーツランドふるかわ電光掲示板更新事業	A(3)	C(1)	B(3)	Ⅳ(7)	91,993,000

【スポーツ大会・宿泊誘致施設】

事業名	要望度合	事業効果	財源確保	総合評価	費用(円)
流葉交流広場人工芝再整備事業	A(3)	B(3)	B(3)	Ⅱ(9)	345,000,000
数河古川ラグビー場人工芝再整備事業	A(3)	B(3)	C(1)	Ⅳ(7)	345,000,000

優先度Ⅴ・Ⅵ
事業の必要性について再検討していく事業

事業名	要望度合	事業効果	財源確保	総合評価	費用(円)
すぱーふるトレーニング室設置事業	B(2)	B(3)	C(1)	Ⅴ(6)	120,000,000
桜ヶ丘体育館駐車場拡張整備事業	A(3)	C(1)	C(1)	Ⅵ(5)	58,545,000
サン・スポーツランドふるかわバックネット裏スタンド屋根整備事業	A(3)	C(1)	C(1)	Ⅵ(5)	87,000,000
古川小学校グラウンド夜間照明整備事業	B(2)	C(1)	C(1)	Ⅵ(4)	32,000,000

市民活動施設

スポーツ大会・宿泊委誘致施設

学校開放施設

(5) 各施設の評価内容

施設ごとの評価内容については、次頁以降の通りです。

総合評価Ⅰ（再評価）・古川トレーニングセンター大規模改修事業（市民活動施設）

アリーナLED化改修
アリーナフロア全面改修
1階トイレ、更衣室改修



1. 要望主旨

平成27年に古川町若宮にトレーニングジムを建設する計画が検討されたが、現在利用のある近傍施設の活用や体育館の空きスペースを活用し器具を設置してはという考え方により、古川トレーニングセンターが整備候補にあがったもの。当初の整備計画策定時においては、トレーニングジム設置をメインに検討されたが、検討委員会において施設全体の老朽化などから大規模改修が先決とされ、事業内容の再検討により課題を解決し、その都度優先度を検討する事業に位置付けられたもの。

2. メリット

古川町の中心地に所在し利用しやすい。市民の運動習慣の向上に寄与する。

施設の根幹となるフロア等を大規模改修することで機能、安全性が向上し、利用者増が見込めるほか、有利なスポーツ振興くじ助成金（toto大規模改修:事業費上限額150,000千円、助成上限額100,000千円）が見込める可能性がある。

3. デメリット

老朽化している施設全体を改修するとなると事業費が高額になる。

市街地において民間経営のトレーニングジム（ひまわり、N's FiT）があり、民業圧迫の可能性があるほか、新規民間事業者開業の可能性がある。

4. 利用者意見

古川町内に公設のトレーニングジムが無く、市民は高山市の福祉の里やビッグアリーナを利用。近年アリーナの電灯切れが頻繁に発生しており利用時に暗いときがある。

5. 既存施設整備、LED化整備における総合優先順位 第1位（48点）

6. 委員会結論（要望度合A、事業効果A、財源確保A）

古川トレーニングセンターの改修にかかる評価は妥当と考える。改修期間の活動場所確保とともに、計画に基づき進めるべき事業。特に照明LED化は不点灯となっている個所もあり早急に行うべき事業と考える。トレーニングジムに関しては、2階格技場の空いたスペースを有効に利用することで安価に整備できるのではないかと。別途検討いただきたい。

※参考（要望元・概算事業費・利用者見込み等）

市議会一般質問有り（平成26年12月・谷口議員、平成27年3月・山下議員、平成28年6月・中嶋議員、平成30年6月・井端議員、令和6年3月・澤議員）

184,242千円（改修工事 183,546千円、備品購入 696千円）

利用者見込み 25,000人/年

総合評価Ⅱ・杉崎公園グラウンド人工芝等再整備事業（市民活動施設）

老朽化した杉崎公園グラウンドの人工芝を全面張替えし、熱中症対策としてプレハブハウス救護所を整備するもの。

グラウンド面積 $A=10,160\text{m}^2$

（ロングパイル人工芝、不陸整正を想定）

プレハブ救護所整備（エアコン設置） $A=19.44\text{m}^2$



1. 要望主旨

人工芝の経年劣化による起伏等による怪我のリスクを回避。

夏季の大会や合宿開催、日中の練習時における熱中症対策。

2. メリット

経年劣化した人工芝を張替え再整備することでサッカー場の機能を高め、サッカー大会の継続誘致、宿泊誘致を図ることが出来る。

市民利用も多く、夜間も利用できることから、再整備を行うことで利用者の増加が見込め、集客数の大幅な減少を防止することが出来る。

熱中症対策としての救護所を整備することで、グラウンド利用者の安全確保ができる。

スポーツくじ（toto助成）や、JFAサッカー施設整備助成、国庫補助など、十分ではないが一定の財源が見込める可能性がある。

※①toto人工芝生化改設：事業費上限4千万円、助成限度額3千万円 ②JFA交付金：事業費上限9千万円、助成費2千7百万円 ③内閣府第2世代交付金（拠点整備事業）：補助率1/2 ※①③、②③の併用は不可。

3. デメリット

整備面積が大きく、人工芝張替えに係る処分、不陸調整も必須であること、人件費や物価の高騰などから整備費が高額となる。※第2期飛騨市総合政策指針における見直し検討施設に該当。

4. 要望者意見

杉崎公園グラウンドは夜間利用も可能で、市民はもとより飛騨地域全体でも利用者が多い。

毎年行われる重要なコンベンション団体の大会開催会場でもあり、宿泊面での事業効果が高い。

市内人工芝グラウンドでは最も利用頻度が高く、人工芝の劣化も他のグラウンドより著しいと考えられ優先的に再整備が必要と思われる。

5. 既存施設整備、LED化整備における総合優先順位 第3位（44点）

6. 委員会結論（要望度合A、事業効果B、財源確保B）

安全性確保の観点からも、優先的に取り組むべき事業であるが、整備費が高額であることから、助成金やふるさと納税などの財源確保と事業費抑制、サッカー大会時の代替場所確保、他のサッカーグラウンドの方向性など、再検討により課題を解決し、優先度を検討する事業。東屋の修繕と救護室の整備も必要と考える。

※参考（要望元・概算事業費・利用者見込み等）

要望元 JSP株、飛騨市スポーツ協会、飛騨地区サッカー協会

事業費 291,900千円（張替え工事費 290,400千円、プレハブ整備 1,500千円）

利用者見込み 18,000人/年

スポーツコンベンション延べ宿泊者数 2,248人/年（R6実績）

令和5年度市内人工芝グラウンドのメーカー調査においては、改修必要度第1順位とされた。芝劣化が著しく、利用可能期間は2年との診断。

総合評価Ⅳ・サン・スポーツランドふるかわ電光掲示板更新事業（市民活動施設）

サン・スポーツランドふるかわ電光掲示板を更新整備するもの。

スコアボード改修工事 一式

スコアボードソフトウェア制作 一式



1. 要望主旨
老朽化や、近年の野球場電光掲示板仕様の変化などから、電光掲示板を更新整備することで野球場自体の機能を高めたい。
2. メリット
野球場機能を高めることにより、各種大会開催を継続することができ、新たな大会誘致にも有利。充分ではないがスポーツくじ（toto助成）など一定の財源が見込める可能性がある。
※①toto競技施設の整備：事業費上限3千万円、助成限度額2千万円
3. デメリット
更新整備費用が高額となる。
整備にかかる財源としての国庫補助が見込めない。
4. 利用者意見
要望主旨のとおり
5. 既存施設整備、LED化整備における総合優先順位 第4位（42点）

6. 委員会結論（要望度合A、事業効果C、財源確保B）

電光掲示板は野球のプレイ自体には支障がなく、観覧者のためのものであり優先度は低い。今後、利用者が減少することも予想され、高額な費用に対し利用者の大幅増が見込めず効果が乏しい。現状を維持しつつ内容の大幅な見直しにより、その都度必要性を検討すべき事業。

※参考（要望元・概算事業費・利用者見込み等）

要望元 飛騨市スポーツ協会、飛騨市軟式野球連盟

総額 91,993千円（改修更新工事 87,890千円、ソフトウェア備品購入 4,103千円）

利用者見込み 7,500人/年

スポーツコンベンション延べ宿泊者数 769人/年（R6実績）

総合評価Ⅱ・流葉交流広場人工芝再整備事業（スポーツ大会・宿泊誘致施設）

老朽化した流葉交流広場グラウンドの人工芝を全面張替え整備するもの。

グラウンド面積 $A=10,106\text{m}^2$

（ロングパイル人工芝、路盤改良を想定）



1. 要望主旨

人工芝の経年劣化による起伏等による怪我のリスクを回避。

2. メリット

経年劣化した人工芝を張替え再整備することでサッカー場の機能を高め、サッカー大会の継続誘致、宿泊誘致を図ることが出来る。

スポーツくじ（toto助成）や、JFAサッカー施設整備助成など、十分ではないが一定の財源が見込める可能性がある。

※①toto人工芝生化改設：事業費上限4千万円、助成限度額3千万円 ②JFA交付金：事業費上限9千万円、助成費2千7百万円③内閣府第2世代交付金（拠点整備事業）：補助率1/2 ※①③、②③の併用は不可。

3. デメリット

整備面積が大きく、人工芝張替えに係る処分、路盤の改良、不陸調整も必須であること、人件費や物価の高騰などから、他の人工芝グラウンドと比較しても整備費が高額となる。

整備にかかる財源としての国庫補助が見込めない。

4. 利用者意見

要望主旨のとおり。

5. 既存施設整備における総合優先順位 第4位（21点）※参考値

6. 委員会結論（要望度合A、事業効果B、財源確保B）

安全性確保の観点からも、優先的に取り組むべき事業であるが、整備費が高額であることから、助成金やふるさと納税などの財源確保と、事業費抑制、サッカー大会時の代替場所確保などの課題を解決し、近隣宿泊施設の将来にわたっての持続性なども考慮して優先度を検討すべき事業。

※参考（要望元・概算事業費・利用者見込み等）

要望元 JSP(株)、流葉観光開発協同組合（指定管理者）

総額 345,000千円（張替え工事、路盤改良、設計・監理等 一式）

利用者見込み 11,000～12,000人/年

スポーツコンベンション延べ宿泊者数 6,863人/年（R6実績）

令和5年度市内人工芝グラウンドのメーカー調査においては、改修必要度第3順位とされた。芝ほぐし、部分補修により5年は対応可能。

総合評価Ⅳ・数河古川ラグビー場人工芝再整備事業（スポーツ大会・宿泊誘致施設）

老朽化した人工芝を全面張替えするもの。
人工芝グラウンド張替え工事 A=12,146㎡



1. 要望主旨

毎年、ひだ数河高原ラグビー場で大会を開催している関西ラグビー協会中学生大会から、人工芝グラウンドについて、滑りやすく表面が固くなっているため、人工芝改修の要望があったもの。岐阜県ラグビーフットボール協会からも要望あり。

2. メリット

人工芝を再整備することでラグビー場の機能を高め、ラグビー大会の誘致を継続できる。
大会誘致を維持することで宿泊誘致も継続できる。
選手の安全面においても、転倒した際の脳震盪防止など安全が確保できる。
toto人工芝生化改設：事業費上限4千万円、助成限度額3千万円が見込める可能性がある。

3. デメリット

整備面積が大きく、人工芝張替えに係る処分、不陸調整も必須であること、人件費や物価の高騰などから整備費が高額となる。
整備にかかる財源としての国庫補助が見込めない。
宿運営の後継者不足、競技人口の減少などから過剰投資となる可能性がある。

4. 利用者意見

要望主旨のとおり。

5. 既存施設整備における総合優先順位 第6位（19点）※参考値

6. 委員会結論（要望度合A、事業効果B、財源確保C）

安全性確保の観点からも、優先的に取り組むべき事業であるが、整備費が高額であることから、助成金やふるさと納税などの財源確保と、事業費抑制などの課題を解決し、近隣宿泊施設の将来にわたっての持続性なども考慮して事業の必要性を検討すべき事業。

※参考（要望元・概算事業費・利用者見込み等）

要望元 関西ラグビーフットボール協会中学生大会、岐阜県ラグビーフットボール協会、数河高原観光協会（指定管理者）

事業費 345,000千円（張替え工事、設計・監理等 一式）

利用者見込み 8,500人/年 ※数河高原全体としての利用者見込み

スポーツコンベンション延べ宿泊者数 2,210人/年（R6実績）

数河高原全体の概要

天然芝グラウンド3面、人工芝グラウンド1面、クレーグラウンド1面（数河緑地広場）、
予備グラウンド2面

増加傾向のアメリカンフットボール団体の新たな合宿誘致をしている。

令和5年度市内人工芝グラウンドのメーカー調査においては、改修必要度第2順位とされたが、芝ほぐし、チップ補強などのメンテナンスで2～3年は対応可能。

総合評価Ⅴ（再評価）・すぱーふるトレーニング室設置事業（スポーツ大会・宿泊誘致施設）

和室周辺を改修する想定。A＝約380㎡
有酸素運動機器及び筋力強化系運動機器の設置



1. 要望主旨

平成27年に古川町若宮にトレーニングジムを建設する計画が検討されたが、現在利用のある近傍施設の活用や体育館などの空きスペースを活用し器具を設置してはなどの考え方により、すぱーふるにトレーニング器具設置する案が候補としてあがったものである。

2. メリット

若い世代の定住促進につながる施設整備となる。
名古屋グランパスエイト夏期合宿の再誘致。
合宿地としての機能アップを図り、プロスポーツチームキャンプの定着をめざす。
プロスポーツの再誘致をすることで、合宿地としての知名度を高め利用者増。
市内温浴利用者の増が見込める。
クアオルト健康ウォーキングと組み合わせたヘルスツーリズムでの活用が期待できる。

3. デメリット

名古屋グランパスエイト夏期合宿の期間は1週間程度
市民利用としては市街地から遠い。
補助財源が見込めない。

4. 利用者意見

筋力トレーニング設備の一般利用で、若い世代にも温泉利用を。
サッカーチーム合宿時にグラウンド・宿舍周辺に筋力トレーニングができる設備を。

5. 既存施設整備における総合優先順位 第8位（15点）※参考値

6. 委員会結論（要望度合B、事業効果B、財源確保C）

整備事業費が高額であり、現在名古屋グランパスエイトは合宿を行っておらず、トレーニング室を整備したことで再誘致できるか不透明。指定管理施設であり、指定管理者からの詳細な意見聴取が必要。現在駅東開発において温浴施設の整備も予定されており、事業の必要性について再度検討してほしい。

※参考（要望元・概算事業費・利用者見込み等）

市議会一般質問有り（平成30年6月・井端議員、同年9月・中嶋議員）
要望元（株）名古屋グランパスエイト、（株）飛騨ゆい（指定管理者）
120,000千円（改修工事 94,500千円、備品購入 18,000千円、設計・監理等7,500千円）
市民の利用向上。年間利用者 6,280人（すぱーふる利用者の約1割）
令和7年度より隣接するホテル季古里指定管理者変更（（株）山野薬彩）。

総合評価Ⅵ・桜ヶ丘体育館駐車場拡張整備事業（市民活動施設）

施設周辺に駐車場を拡張、区画を整備し、駐車台数の増加を図る。

旧桜ヶ丘プール解体工事 $A=145.8\text{m}^2$

桜ヶ丘体育館屋内消化用防火水槽整備

駐車場乗入れ通路拡張整備工事 $A=\text{約}400\text{m}^2$

駐車場舗装区画整備工事 $A=\text{約}1,025\text{m}^2$



1. 要望主旨
大会開催時など、駐車スペース（区画）が少なく、路上駐車されることが度々あるため、施設周辺に駐車場を拡張整備したい。
2. メリット
駐車場を拡張することで、大会参加者や普段の施設利用者の利便性が図れる。
大規模な大会開催誘致が可能となる。
路上駐車がなくなり、交通安全が図れる。
3. デメリット
施設の立地上、隣接する旧桜ヶ丘プールの解体工事他、付帯する整備工事が必要となり、整備事業費が多額となるほか、神岡中学校グラウンド敷地の一部を乗入れ通路として拡張することとなる。
整備に係る事業費の補助等が見込めない。
4. 利用者意見
要望主旨と同様
5. 既存施設整備、LED化整備における総合優先順位 第2位（47点）

6. 委員会結論（要望度合A、事業効果C、財源確保C）

現実的に困難な事業ではないか。神岡中学校のサブグラウンドやスカイドームの第2駐車場の利用など、複数の代替策を検討しつつ、長期的な視点で必要性を検討すべき事業。

※参考（要望元・概算事業費・利用者見込み）

要望元 飛騨市スポーツ協会、飛騨市バドミントン協会

事業費 58,545千円～（解体工事 40,000千円～、防火水槽等整備 5,000千円～、駐車場乗入れ整備 4,500千円～、駐車場舗装整備 9,045千円～）

利用者見込み R5実績より34,000人余りの利用者があるが、駐車場整備による利用者の増加はほぼ見込めない。

総合評価Ⅵ・サン・スポーツランドふるかわバックネット裏スタンド屋根整備事業 (市民活動施設)

バックネット裏スタンド屋根整備事業
A = 230.4m²



1. 要望主旨
近年の猛暑による観戦者の熱中症対策のため、観戦スタンドに日陰となる屋根整備を。
2. メリット
大会開催時の保護者や一般観戦者の熱中症による健康被害を予防することができる。
野球場機能を高めることにより、各種大会開催を継続することができ、新たな大会誘致にも有利。
3. デメリット
冬季間の積雪、既存管理棟の構造計算も考慮した屋根を整備する必要がある、事業費が高額になる。
整備にかかる補助財源が見込めない。
4. 利用者意見
要望主旨と同様。
5. 既存施設整備、LED化整備における総合優先順位 第4位（42点）

6. 委員会結論（要望度合A、事業効果C、財源確保C）

スタンド屋根は観覧者のためのものであり優先度は低い。今後、利用者が減少することも予想され、高額な費用に対し効果が乏しい。代替策を検討するとともに、長期的な視点で必要性を検討すべき事業。

※参考（要望元・概算事業費・利用者見込み等）

要望元 飛騨市スポーツ協会、飛騨市軟式野球連盟

総額 87,000千円（整備工事、設計管理等一式）

利用者見込み 7,500人/年

スポーツコンベンション延べ宿泊者数 769人/年（R6実績）

社会人野球大会時は、簡易テントをスタンドに設置して対応。

総合評価Ⅵ・古川小学校グラウンド夜間照明整備事業（市民活動施設）

古川小学校グラウンド夜間照明整備。A=6,856㎡
グラウンド全体に必要な照度を確保するための
再整備



1. 要望主旨

軟式野球スポーツ少年団の平日夕方からの練習において、照明が暗いため玉が見えず、怪我をする恐れがあるため、照明照度確保のための整備を要望されたものである。

2. メリット

夜間練習時のけがが予防できる。

3. デメリット

照明LED化を含め、夜間に必要な照度の設備を整備するためには、高額な事業費がかかる。子どもの競技人口も減少していることから過剰投資になる可能性がある。

4. 利用者意見

要望主旨のとおり

5. LED化整備における総合優先順位 第10位（13点）※参考値

6. 委員会結論（要望度合B、事業効果C、財源確保C）

野球スポーツ少年団単体からの要望であるが、練習時間が過剰になる恐れがある。事業効果・財源確保の面からも困難であり、団体OBや地元企業からの寄付など、要望団体が自ら自己財源の確保を行うことも選択肢の一つと考える。照明設備を有する代替グラウンドもあるため長期的な視点で必要性を検討すべき事業。

※参考（要望元・概算事業費・利用者見込み等）

市議会一般質問有り（平成5年3月・井端議員）

要望元 古川クラブ（少年野球）

事業費 32,000千円（整備工事 32,000千円）※事業費は神小グラウンド夜間照明のLED化概算事業費を参照

延べ年間利用者 1,738人（古川クラブのみの利用）

2. 既存施設のLED化整備計画

【桜ヶ丘体育館アリーナ照明】



【古川トレーニングセンターアリーナ照明】



2. 既存施設のLED化整備計画

喫緊の課題であるスポーツ施設のLED化改修事業は、通常の施設維持整備における優先順位採点方法とは区別し、下記の表のとおり、施設利用度（利用者数、利用者範囲）を最優先事項とし、照明設備を対象とした経済性（電気料）、代替施設（有・無）、要望度（要望度合）の4項目について配点し、総合順位を決定します。また、LED化整備計画においては、学校運動場夜間照明施設条例に規定する施設も併せて順位付けを行うほか、グラウンド夜間照明施設については夜間利用率も考慮し利用度を採点します。

既存施設のLED化は脱炭素化の推進と共に、維持管理コストを大幅に削減できることや、現時点で国庫補助や有利な起債が見込めることなどから、早期に事業着手する必要があります。

① スポーツ整備計画(既存施設のLED化整備)採点表

種別	小分類	配点基準					
利用度	利用者数	10,000人以上	5,000以上 10,000人未満	1,000以上 5,000人未満	100人以上 1,000人未満	100人未満	8点満点
		4	3	2	1	0	
	利用者範囲	市外含	市全域	旧町村	単位地区	無	
		4	3	2	1	0	
経済性①	年間電気料	200万円以上	100～200万円未満	50～100万円未満	10～50万円未満	10万円未満	8点満点
		8	6	4	2	1	
経済性②	改修事業費	500万円未満	500～1,000万円未満	1,000～3,000万円未満	3,000～5,000万円未満	5,000万円以上	4点満点
		4	3	2	1	0	
代替性	代替施設の有無	市内・無	市内・有	町内・有	地域内・有	近傍・有	4点満点
		4	3	2	1	0	
要望度	要望の有無	市全体統括 団体要望	複数団体合 同要望	地域団体要 望	総合政策審 議会ほか	要望無	4点満点
		4	3	2	1	0	

なお、3. 既存施設の維持整備計画において除外された施設のほか、下記の施設については、既にLED化している施設のため、今回の順位付けには含みません。

② 今回の順位検討から除外する施設(順不同)

坂巻公園野球場	黒内屋内運動場	増島児童公園グラウンド
---------	---------	-------------

③ 既存スポーツ施設LED化優先順位表

No	施設名	照明種別	採点							LED化 事業費 (千円)
			利用度		経済性①	経済性②	代替性	要望度	総 点 数	
			利用者数	利用者 範囲	電気料	LED化事 業費	代替施設 の有無	要望度 合い		
1	桜ヶ丘体育館	メタルハライド(アリーナ)、蛍 光灯、白熱電球他	4	4	8	1	4	4	25	45,378
2	古川トレーニングセンター	メタルハライド(アリーナ)、蛍 光灯他	4	4	6	2	4	4	24	25,000
3	杉崎公園グラウンド	メタルハライド(グラウンド)	4	4	4	2	4	4	22	28,736
4	サン・スポーツランドふるか わ	メタルハライド(グラウンド)、蛍 光灯、白熱電球(管理棟)	3	4	6	0	4	4	21	52,046
5	森林公園(野球場・陸上競 技場・キャンプ場・テニス場)	メタルハライド・高圧ナトリウム (グラウンド)、蛍光灯他	3	4	4	0	4	4	19	102,381
6	サンビレッジ神岡	メタルハライド(アリーナ)、蛍 光灯他	3	3	4	2	4	0	16	16,500
7	飛騨かわいスキー場	蛍光灯、白熱電球他	4	4	2	3	3	0	16	5,852
8	角川屋内運動場	水銀灯(アリーナ)、蛍光灯他	2	3	2	4	3	0	14	2,860
9	宮川アリーナ	水銀灯(アリーナ)、蛍光灯他	2	3	2	4	3	0	14	4,400
10	河合市営プール及び管理棟	蛍光灯、白熱電球他	1	2	2	4	3	0	12	501
11	宮川スポーツ公園施設	メタルハライド(グラウンド)、蛍 光灯、白熱電球(管理棟)	1	3	4	1	3	0	12	35,605
12	稲越運動広場	水銀灯(グラウンド)	2	3	2	1	3	0	11	35,357
13	釜崎屋内ゲートボール場	水銀灯(アリーナ)、蛍光灯他	1	2	1	4	3	0	11	2,234
14	宮川市営プール・管理棟	蛍光灯、白熱電球他	0	2	2	4	3	0	11	2,255
15	稲越健康管理センター	蛍光灯、白熱電球他	0	3	1	4	2	0	10	2,000
16	釜崎社会体育館	メタルハライド(アリーナ)、蛍 光灯他	2	2	2	3	1	0	10	8,272
17	坂下体育館	水銀灯(アリーナ)、蛍光灯他	1	1	1	4	2	0	9	2,475
18	山田体育館	メタルハライド(アリーナ)、蛍 光灯他	1	1	1	3	2	0	8	5,561
計										377,413

既存施設のLED化整備計画における優先順位は上記のとおりとなっています。前述のとおり、早期に事業着手する必要がありますが、全ての施設のLED化には、3億7千万円余りの事業費が必要となるため、優先順位に基づいた計画的な整備と共に、財源確保の取り組みを行って行きます。また、利用者数・代替性ポイントの低い施設については、利用状況の推移を見ながら、施設の機能集約・統廃合を検討していくものとします。

また、スポーツ施設には「学校開放施設」や「スポーツ大会・宿泊誘致施設」もあり、行政目的がそれぞれ異なることから、同列に優先順位をつけることは困難ですが、スポーツ施設と同様の条件で採点を行った場合の優先順位は、下記のとおりです。

④ 既存学校開放施設優先順位表【参考】※利用者数は一般開放での利用者

No	施設名	照明種別	採 点							LED化 事業 費(千 円)
			利用度		経済性①	経済性②	代替性	要望度	総 点 数	
			利用者数 ※	利用者 範囲	電気料	LED化事 業費	代替施設 の有無	要望度 合い		
1	古川小学校グラウンド	予備照明(メタハラ)	2	2	4	1	2	2	13	35,000
2	宮川小学校体育館	水銀灯	1	2	2	3	4	0	12	8,000
3	古川中学校グラウンド(夜間照明設備)	メタルハライド(グラウンド)	2	2	4	1	2	0	11	39,509
4	神岡小学校グラウンド(夜間照明設備)	メタルハライド(グラウンド)	2	2	2	1	2	2	11	32,000
5	神岡中学校グラウンド(夜間照明設備)	メタルハライド(グラウンド)	1	2	2	1	2	0	8	43,000
6	古川西小学校グラウンド	予備照明(メタハラ)	1	2	2	1	2	0	8	35,000

⑤ 既存スポーツ大会・宿泊誘致施設優先順位表【参考】

No	施設名	照明種別	採 点							LED 化事業費 (千円)
			利用度		経済性①	経済性②	代替性	要望度	総 点 数	
			利用者数	利用者 範囲	電気料	LED化事業費	代替施設の 有無	要望度 合い		
1	流葉スキー場(Mプラザ、山頂レストラン)	蛍光灯、白熱電球他	4	4	8	2	3	0	21	17,939

なお、下記の施設については、既にLED化している施設のため、今回の順位付けには含みません。

⑥ 今回の順位検討から除外する施設(順不同)

古川中学校体育館	古川小学校体育館	古川西小学校体育館	河合小学校体育館
神岡中学校体育館	神岡小学校体育館	山之村小中学校体育館	

【委員会結論】

配点基準に基づいた優先順位で早急に進めるべき。他の整備事業よりも、一番先にやらなければならない事業である。利用者の多い施設、既に不点灯の生じている施設から進め、特に体育館は1年間通して使用される施設であり、夜間の利用も多いことから優先的に事業着手すべきと考える。速やかな財源確保をお願いしたい。

3. 既存施設の維持整備計画

【サンビレッジ神岡】



【宮川アリーナ】



【角川屋内運動場】



【森林公園グラウンド】



【宮川市営プール】



【飛騨かわいスキー場】



3. 既存施設の維持整備計画

既存施設の維持整備の優先度は、下記の表のとおり施設利用度（利用者数、利用者範囲）を最優先事項とし、次に代替施設（有・無）、要望度（要望度合）、施設の健全性（耐震必要度、劣化度）、最後に施設の経済性（維持管理費）の5点について比較し、総合的に順位を決定します。なお、施設の健全性における耐震必要度については、耐震必要度が高い施設ほど維持改修費が多く見込まれることから、当初計画時とは逆に、耐震性のある施設ほど高配点となるものとします。

① スポーツ整備計画(既存施設)採点表

種別	小分類	配点基準					
利用度	利用者数	10,000人以上	5,000以上 10,000人未満	1,000以上 5,000人未満	100人以上 1,000人未満	100人未満	8点満点
		4	3	2	1	0	
	利用者範囲	市外含	市全域	旧町村	単位地区	無	
		4	3	2	1	0	
代替性	代替施設の 有無	市内・無	市内・有	町内・有	地域内・有	近傍・有	4点満点
		4	3	2	1	0	
要望度	要望の有無	市全体統 括団体要 望	複数団体 合同要望	地域団体 要望	総合政策 審議会ほ か	要望無	4点満点
		4	3	2	1	0	
健全性	耐震必要度	耐震有 (H26)	耐震有 (H12)	耐震有 (S58)	耐震 未調査	耐震無	8点満点
		4	3	2	1	0	
	劣化度	全体	広範囲	中程度	一部	問題無	
		4	3	2	1	0	
経済性	維持管理費	100万未 満	100～ 500万円	500～ 1,000万円	1,000～ 2,000万円	2,000万円 以上	4点満点
		4	3	2	1	0	

なお、4頁の「(1)課題」でも述べたように、下記の施設については、スポーツ施設としての利用がほぼ無く、今回の順位付けには含みません。除外した施設については、地域コミュニティ拠点として活用されている施設もあり、今後、個別に該当する地域や利用団体等と丁寧な協議を行い、施設の譲渡や統廃合等を検討していきます。また、当初計画策定後にスポーツ施設条例から削除された施設、統廃合や廃止の方針が決定した施設は除きます。

② 今回の順位検討から除外する施設(順不同)

サイクリングロード	元田体育館	元田運動場	羽根グラウンド
角川体育館	角川グラウンド	坂下グラウンド	Eボート施設(倉庫)
大無雁広場	種蔵広場	山田グラウンド	旭ヶ丘市民プール
角川ゲートボール場	宮川山村広場施設		

以上の方法で、優先順位を付けた結果、次頁の表のとおりとなっています。

③ 既存スポーツ施設優先順位表

No	施設名	要望事業名	採点							
			利用度		代替性	要望度	健全性		経済性	総点数
			利用者数	利用者範囲	代替施設の有無	要望度合い	耐震必要度	劣化度	維持管理	
1	古川トレーニングセンター	大規模改修(LED・アリーナ・トイレなど)	4	4	4	4	3	3	2	24
2	桜ヶ丘体育館	柔剣道場空調・排水設備・駐車場拡張	4	4	4	4	3	1	2	22
3	杉崎公園グラウンド	人工芝再整備・コンテナハウス・堤防階段設置	4	4	3	4	－	3	3	21
4	サン・スポーツランドふるかわ	電光掲示板・スタンド屋根	3	4	4	4	2	2	2	21
5	サンビレッジ神岡	屋根塗装工事	3	3	4	2	3	2	3	20
6	宮川アリーナ	駐車場舗装・屋根塗装工事	2	3	3	2	2	2	4	18
7	飛騨かわいスキー場		4	4	3	2	2	1	1	17
8	森林公園(野球場・陸上競技場・キャンプ場・テニスコート)		3	4	4	0	1	1	3	16
9	角川屋内運動場		2	3	3	0	3	0	4	15
10	宮川市営プール・管理棟		0	2	3	0	3	2	4	14
11	古川町黒内屋内運動場		2	2	3	0	3	0	4	14
12	河合市営プール及び管理棟		1	2	3	0	2	2	4	14
13	釜崎屋内ゲートボール場		1	2	3	0	2	2	4	14
14	稲越運動広場		2	3	3	0	－	1	4	13
15	釜崎社会体育館		2	2	1	0	2	2	4	13
16	宮川スポーツ公園施設		1	3	3	0	2	2	2	13
17	稲越健康管理センター		0	3	2	0	1	2	4	12
18	坂巻公園野球場		2	3	3	0	－	1	3	12
19	山田体育館		1	1	2	0	2	2	3	11
20	坂下体育館		1	1	2	0	1	2	4	11
21	元田体育館(レジェンドあすか)	体育館屋根塗装、給排水設備、屋上防水	0	1	0	2	1	3	4	11
22	増島児童公園グラウンド		0	1	2	0	－	1	4	8
23	元田運動広場		0	1	2	0	－	1	4	8
24	神岡東グラウンド		1	1	1	0	－	1	4	8
25	杉崎ゲートボール場		0	1	1	0	－	1	4	7

既存施設の維持整備の優先度は、原則、上記順位に基づき実施していくこととしますが、新たな市民要望や、利用者の安全にかかわる維持修繕、施設の根幹を成す機能そのものが損なわれる維持修繕については、その都度優先順位を検討していくほか、利用者数・代替性ポイントの低い施設については、利用状況の推移を見ながら、施設の機能集約・統廃合を検討していくものとします。

既存スポーツ施設のLED化優先順位と同様に、「学校開放施設」、「スポーツ大会・宿泊誘致施設」についてスポーツ施設と同様の条件で採点を行った場合の優先順位は、下記のとおりです。

④ 既存学校開放施設優先順位表【参考】※利用者数は一般開放での利用者

No	施設名	要望事業名	採点							
			利用度		代替性	要望度	健全性		経済性	総点数
			利用者数 ※	利用者 範囲	代替施設 の有無	要望度 合い	耐震 必要度	劣化度	維持管理	
1	古川中学校体育館・格技場		4	3	4	0	4	1	3	19
2	古川小学校体育館		3	3	4	0	4	1	3	18
3	古川西小学校体育館		3	3	4	0	4	1	3	18
4	河合小学校体育館		2	2	4	0	4	2	4	18
5	宮川小学校体育館		1	2	4	0	4	1	4	16
6	神岡中学校体育館		2	2	4	0	4	1	3	16
7	神岡小学校体育館		1	2	4	0	4	1	3	15
8	山之村小中学校体育館		0	1	4	0	4	1	4	14

※利用者数は学校授業は含まず。学校開放施設としての一般利用者数として採点。

※学校教育の観点から代替性はないものとして採点。

⑤ 既存スポーツ大会・宿泊誘致施設優先順位表【参考】

No	施設名	要望事業名	採点							
			利用度		代替性	要望度	健全性		経済性	総点数
			利用者数	利用者 範囲	代替施設 の有無	要望度 合い	耐震 必要度	劣化度	維持管理	
1	流葉交流広場グラウンド(人工芝1)	人工芝再整備	4	4	3	2	-	3	4	20
2	流葉スキー場		4	4	3	2	3	2	1	19
3	数河高原グラウンド(天然芝3, 人工芝1)	人工芝再整備	3	4	3	2	-	3	3	18
4	古川桃源郷温泉すばーふる		4	4	3	0	2	2	0	15
5	ふれあい広場グラウンド(天然芝3, 人工芝1)		4	4	3	0	-	2	0	13

【委員会結論】

施設ごとに点数に現れない個別事情もあると思われるが、利用度の高い施設の整備が優先となるのはやむを得ない。スポーツ大会・宿泊誘致施設は、宿泊施設の今後の継続性も考慮した議論も必要と考える。10年後、20年後まで残していく施設とそうでない施設を選定する必要があるが、今後の施設整備においては4町の人口割合なども考慮し、極端な地域格差が生まれないよう検討を進めていただきたい。市のスポーツ施設数は、人口の多い時のまま推移しており、ある程度は減らしながら無駄のない整備をお願いしたい。

4. 財源の見通しについて

当初計画では、社会体育施設の整備については、合併時に策定した「新市まちづくり計画」において、「健康づくりと地域交流を目的とした社会体育の推進」を掲げていることから、施設の改修整備に要する費用は、合併特例債を原資として積み立てた合併基金からの繰入により財源を確保することとしていました。

また、将来的に当該財源に不足が生じた場合にあっては、新たな市債の発行は行わず、決算剰余金の積立て等を原資とした基金造成により対応する方針としていました。

しかしながら、近年の急激な物価高騰や人件費の上昇等により、施設整備に要する費用が大幅に増加していることに加え、社会経済情勢の不安定化により、今後の財政運営における見通しが一層不透明となっているのが実情です。

これらを踏まえ、今回の計画見直しにおける財源見通しについては、「第2期飛騨市総合政策指針」における財政運営の基本方針である「財政余力を見定め、その範囲内において事業を実施する」ことを原則とし、全庁的な視点も含めて本計画における事業の優先順位を尊重しつつ、各年度の事業規模を精査しながら、限られた財源の中で、計画的かつ段階的に社会体育施設の改修整備を進めていくものとします。

資料編

1. 計画の策定経緯

飛騨市スポーツ施設整備計画策定委員会の動き

日時	内容	
平成30年7月18日	第1回会議	事業概要説明、日程についての審議 意見交換
平成30年9月26日	第2回会議	要望団体からの聞き取り、 意見交換
平成30年9月30日	第3回会議	施設視察、要望団体からの聞き取り 意見交換
平成30年10月16日	第4回会議	施設視察、意見交換
平成30年10月23日	第5回会議	各施設についての審議
平成30年10月31日	第6回会議	要望団体からの聞き取り、 委員会結論の整理
平成30年11月15日	市長報告	委員会意見の報告

飛騨市スポーツ施設整備計画改定委員会の動き

日時	内容	
令和7年1月30日	第1回会議	計画見直し経緯説明、日程についての審議、 事務局見直し計画素案に対する意見交換
令和7年12月11日	第2回会議	第1回会議意見、素案答申を踏まえた計画案1稿 に対する意見交換
令和8年1月〇日	第3回会議	第2回会議意見、パブコメ、計画案2稿に対する意 見交換、委員会結論の整理
令和8年〇月〇日	市長報告	委員会意見の報告

2. 計画の策定体制

平成30年度 飛騨市スポーツ施設整備計画策定委員会

役職	氏名	区分	所属等
委員長	田近 豊一	観光関係者	一般社団法人飛騨市観光協会事務局長
委員	上林 茂子	体育関係者	飛騨市生涯学習推進会議運営委員 スポーツ振興部会長
委員	川合 保忠	体育関係者	飛騨市スポーツ推進委員 委員長
委員	橋本 誠	体育関係者	飛騨市スポーツ少年団本部長
委員	中村 輝政	体育関係者	学識経験者
委員	盤所 杏子	体育関係者	学識経験者
委員	神戸 幸雄	体育関係者	一般利用者
委員	福永 聡	体育関係者	一般利用者
委員	藤田 栄	観光関係者	一般社団法人飛騨市観光協会 神岡支部長

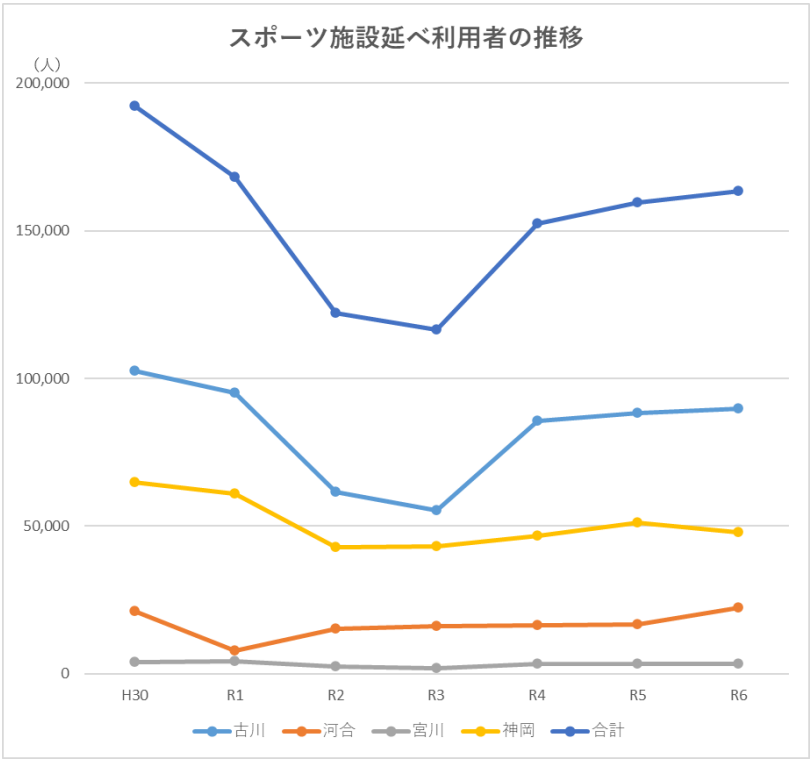
令和7年度 飛騨市スポーツ施設整備計画改定委員会

役職	氏名	区分	所属等
委員長	向川原 真郷	教育関係者	飛騨市教育委員
委員	齋藤 由宏	観光関係者	(一社)飛騨市観光協会事務局長
委員	中畑 真由美	体育関係者	飛騨市スポーツ少年団事務局
委員	布俣 知哉	体育関係者	学識経験者
委員	盤所 杏子	体育関係者	学識経験者
委員	小田 大輔	体育関係者	一般利用者
委員	土井 圭一郎	体育関係者	一般利用者
委員	藤田 栄	観光関係者	(一社)飛騨市観光協会神岡支部長

3. 改修整備を行う施設の所在地(計画予定地)

施設名称	所在地(計画予定地)	区分
古川トレーニングセンター	古川町沼町233-1	改修
杉崎公園グラウンド	古川町杉崎3641-1	改修
サン・スポーツランドふるかわ野球場	古川町下野1322-2	改修
流葉人工芝グラウンド	神岡町	改修
数河古川ラグビー場	古川町数河303-3	改修
桜ヶ丘体育館	神岡町桜ヶ丘1-2	改修
古川小学校グラウンド	古川町片原町8-35	改修
すぱーふる	古川町黒内1407	改修

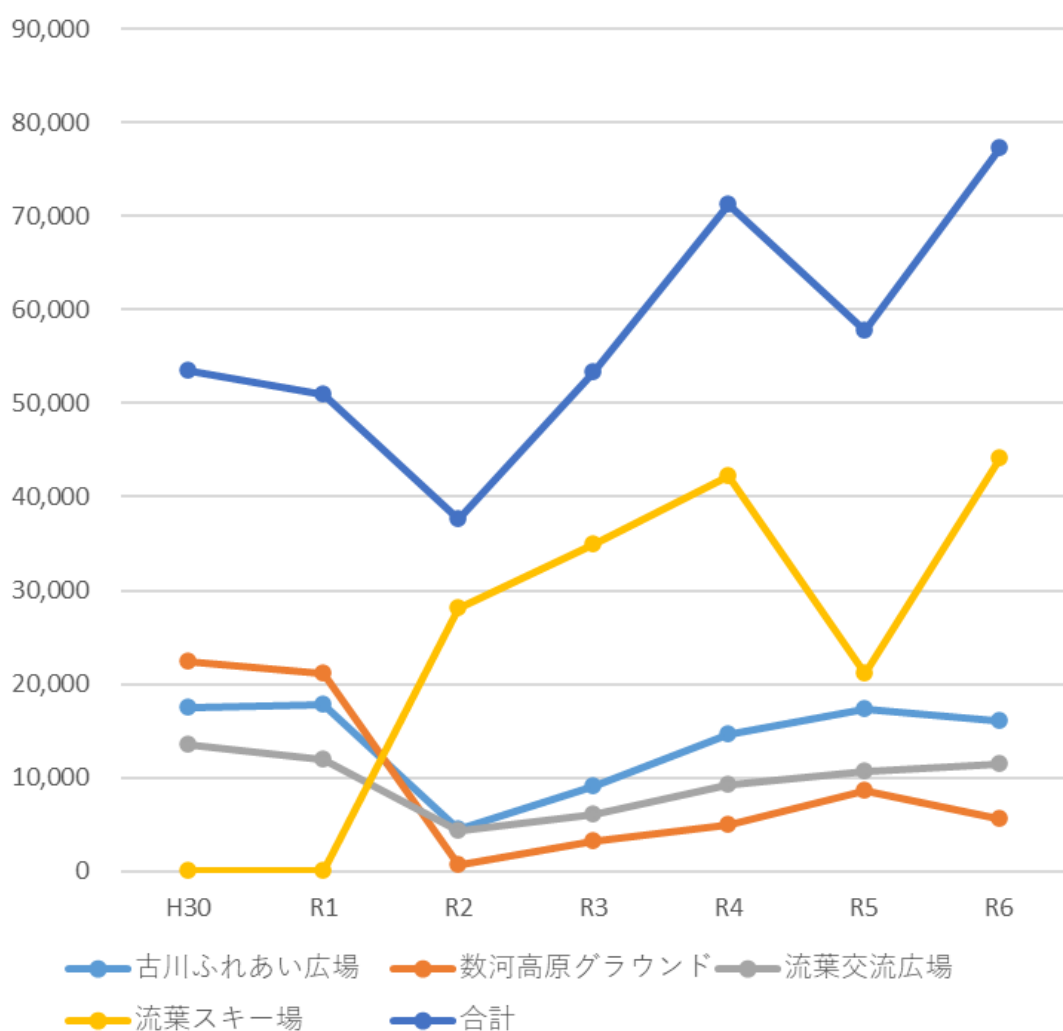
4. スポーツ施設の延べ利用者推移



◎スポーツ施設延べ利用者の推移 (単位：人)

古川	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	宮川	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
古川トレーニングセンター	40,317	31,141	22,055	21,799	29,534	25,489	23,626	宮川アリーナ	1,615	1,542	1,588	1,483	1,510	1,804	1,793
杉崎公園グラウンド	20,136	20,094	12,784	11,785	15,335	17,958	17,885	宮川スポーツ公園	1,363	1,471	140	207	1,128	739	626
サン・スポーツランド古川	12,660	17,333	7,552	9,595	7,962	7,444	8,254	坂下体育館	172	171	0	5	159	198	367
森林公園（野球場）					2,641	2,755	2,779	宮川市営プール	0	79	44	105	59	46	79
森林公園（陸上競技場）					3,279	2,353	2,332	宮川小学校体育館	704	947	750	54	546	488	512
森林公園（テニスコート）					144	119	243	宮川小学校グラウンド	0	150	0	0	0	0	0
森林公園（キャンプ場）					1,055	831	544	小計	3,854	4,360	2,522	1,854	3,402	3,275	3,377
黒内屋内運動場	2,379	1,979	1,964	1,818	1,810	1,949	1,734	神岡	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
増島児童公園グラウンド	2,105	2,058	1,839	1,239	1,549	1,219	0	桜ヶ丘体育館	36,934	35,628	26,804	28,010	28,914	34,334	32,423
古川中学校体育館	6,548	6,218	3,452	2,365	4,832	7,869	9,071	サンビレッジ神岡	6,224	5,461	5,591	5,089	5,439	5,070	4,307
古川中学校格技場	2,299	2,875	1,169	659	1,547	3,303	5,465	釜崎社会体育館	4,059	3,615	2,309	2,960	3,979	3,200	2,941
古川中学校グラウンド	3,370	3,804	699	510	1,249	1,325	2,308	坂巻公園グラウンド	2,674	2,093	926	529	722	873	1,086
古川小学校体育館	5,360	4,770	7,668	3,189	7,155	7,751	7,339	神岡東グラウンド	2,749	2,434	1,876	1,368	1,313	950	992
古川小学校グラウンド	1,556	929	282	543	1,654	1,738	2,646	釜崎屋内ゲートボール場	2,031	1,246	1,088	963	937	872	926
古川西小学校体育館	4,366	3,485	1,328	1,088	4,600	5,143	4,766	山田体育館	1,695	1,771	826	611	720	37	460
古川西小学校グラウンド	1,504	410	833	765	1,291	955	640	神岡中学校体育館	3,567	4,600	1,696	1,738	2,483	2,587	2,151
小計	102,600	95,096	61,625	55,355	85,637	88,201	89,632	神岡中学校グラウンド	1,134	1,331	344	578	482	746	365
河合	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	神岡小学校体育館	1,560	610	393	392	683	809	953
角川土間付体育館	2,375	2,170	2,619	1,806	2,410	2,136	2,210	神岡小学校グラウンド	2,123	2,256	975	885	1,072	1,727	1,371
稲越グラウンド	1,018	977	330	718	695	1,048	603	小計	64,750	61,045	42,828	43,123	46,744	51,205	47,975
稲越健康管理センター	124	191	22	70	36	28	92	総合計	192,301	168,226	122,252	116,510	152,356	159,493	163,359
河合市営プール	0	218	0	336	233	321	143								
河合小学校体育館	2,992	3,907	1,283	2,221	2,355	2,187	2,912								
河合小学校グラウンド	188	262	291	16	120	22	0								
飛騨かわいスキー場	14,400	0	10,732	11,011	10,724	11,070	16,415								
小計	21,097	7,725	15,277	16,178	16,573	16,812	22,375								

(人) スポーツ大会・宿泊誘致施設延べ利用者の推移



◎スポーツ大会・宿泊誘致施設延べ利用者の推移 (人)

(単位：人)

施設名	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
古川ふれあい広場	17,455	17,878	4,447	9,105	14,634	17,281	16,012
数河高原グラウンド	22,450	21,135	720	3,157	5,012	8,655	5,600
流葉交流広場	13,520	11,980	4,390	6,060	9,320	10,750	11,520
流葉スキー場	—	—	28,087	34,980	42,296	21,111	44,102
合計	53,425	50,993	37,644	53,302	71,262	57,797	77,234

平成31年2月
飛驒市役所 教育委員会事務局
生涯学習課
令和8年3月改定
スポーツ振興課



HIDA CITY
飛驒市